

第4章 青葉山公園整備基本計画の基本的考え方

4-1. 基本目標

青葉山公園は、仙台の礎である仙台城跡を含む青葉山と広瀬川に囲まれた区域について、藩政時代からの歴史的・文化的資源や優れた自然景観を生かしながら、市民や仙台を訪れた人が親しむことのできる杜の都のシンボルとなる公園として整備する。

このような考え方のもと、本計画の基本目標を以下のとおりとする。

【計画テーマ（将来像）】

-仙台的誇りを育み

心に染み入る歴史と自然の景域づくり-

「百年の杜づくり」のシンボルとして、
自然、歴史、文化等の仙台を代表する資源を多様な主体により
ソフト、ハード両面から機能発揮を図り、
仙台発祥の地としての誇りと心を守り、育て、未来に伝える取り組みを目標とする。

※景域（景観領域）

- ・視覚で捉えられる「景観」のみならず、その地域の特性を資源として位置づけ、空間に投影していく概念。
- ・青葉山周辺を、仙台発祥の地としての固有の歴史や文化、自然、景観といった貴重な資源が一体的に存在している空間であり、本計画においては、この「景域」という概念を取り入れていく。

4-2. 基本方針

基本的な考え方及び基本目標を踏まえ、本計画の基本方針を以下のとおりとする。

1) 広域的な視点による計画

- 周辺地区の緑や施設と連携した公園づくり
- 中心市街地の活動拠点や緑のネットワークと連携した公園づくり

市民の都市生活に欠かせない公園緑地のニーズを考慮して、市域の主要公園緑地や青葉山周辺地区における活動拠点や緑の拠点と連携する体系的な計画をめざし、本公園が担うべき役割を明確にした計画とする。

2) 百年の杜づくりのシンボルとなる歴史的資源・自然資源の保全と活用

- 都市環境の保全緑地としての拠点づくり
- 歴史的資源や自然資源の存在効用と利用効用を基盤とした公園づくり

中心市街地の緑のネットワークとの連携により、都市に冷涼な空気を送り、生態系や都市環境の保全に供する自然緑地として将来へ継承する。

また、本公園と広瀬川沿いの領域は、公共施設・民間施設も含めた地域のデザイン協調など、百年をかけて杜づくりを推進する仙台のシンボルエリアとする。

3) 地域資源を活かした市民活力の場の創出

- 優れた地域資源を活用した魅力ある空間をベースとした活動の場づくり
- すべての市民に愛され、地域の遺伝子を継承する公園づくり

歴史的資質と潜在する公園利用ニーズの共存を考慮しながら、新たな公園運営と市民参加を積極的に許容できる公園づくりをめざす。また生まれた活力が周辺と連携しながら中心部へと波及していく長期的視野に基づく整備・運営を行う。

4) 杜の都仙台を代表する品格ある公園づくり

- 藩政時代から継承されてきた地域の資源を活かした仙台らしさの創造
- 周辺地域との機能分担による一貫した特色をもつ空間づくり

青葉山公園は青葉山の自然と史跡仙台城跡を基盤とする公園である。藩政時代からの優れた自然を保護育成しながら、仙台城の歴史的研究や復元を進めるアクティブに変化する公園であり、その成果が楽しめる公園として位置づける。

5) 地域の特色ある景域と景観軸の活用

- 築城の基盤となった青葉山と広瀬川の歴史的景観、自然景観要素の保全と活用

広瀬川兩岸の河岸段丘に形成された都市の骨格が表すランドスケープを最大限に活かし、公園造成によりそれが隠蔽されないデザインとする。また経ヶ峯や大手門への軸など築城時の歴史的景観軸を大切に、藩政期から受け継がれる空間構成を活かした計画とする。